

台灣情報誌

# 交流

2019年3月 *vol.936*

公益財団法人 日本台灣交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association

2018年第4四半期の国民所得統計  
及び2019年の予測



# 交流

2019年3月  
vol.936

## 目次

### CONTENTS

2018年第4四半期の国民所得統計及び2019年の予測	1
2018年第4四半期の国際収支統計	8
【台湾魅力発信】	
李永得・客家委員会主任委員特別インタビュー	10
(寺山 学)	
台湾ランニング事情 第11回	
2019日月潭周回ロードレース	14
(石原忠浩)	
片倉佳史の台湾歴史紀行 第十二回	
新竹(1)～台湾北西部の中核	22
(片倉佳史)	
日本台湾交流協会事業月間報告	32

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

#### ● 交流協会について ●

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

## 2018年第4四半期の国民所得統計及び2019年の予測

2019年2月13日 行政院主計総処発表

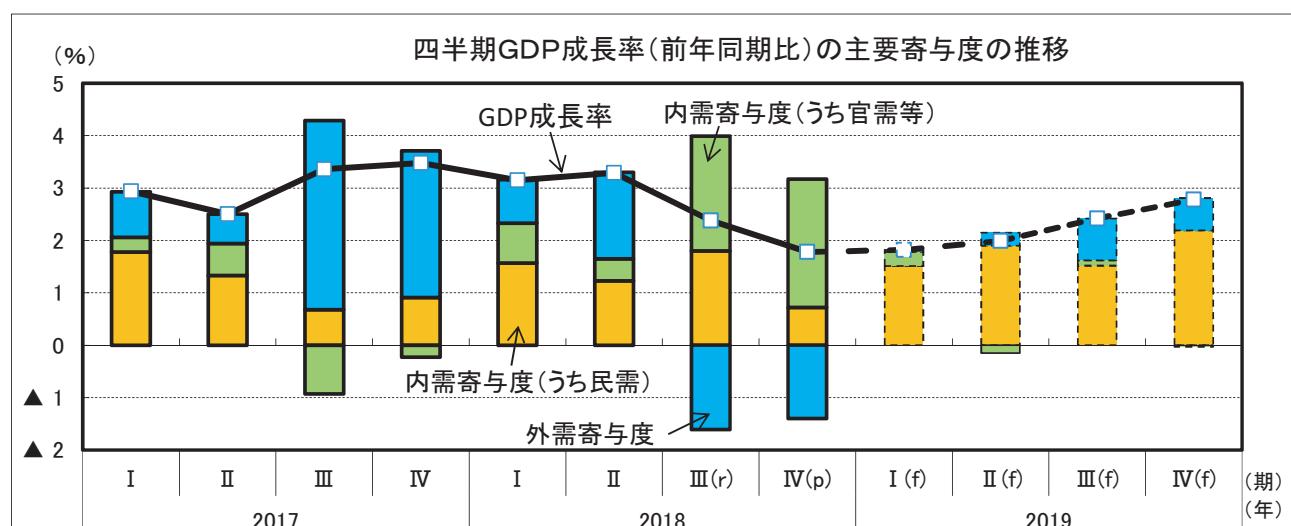
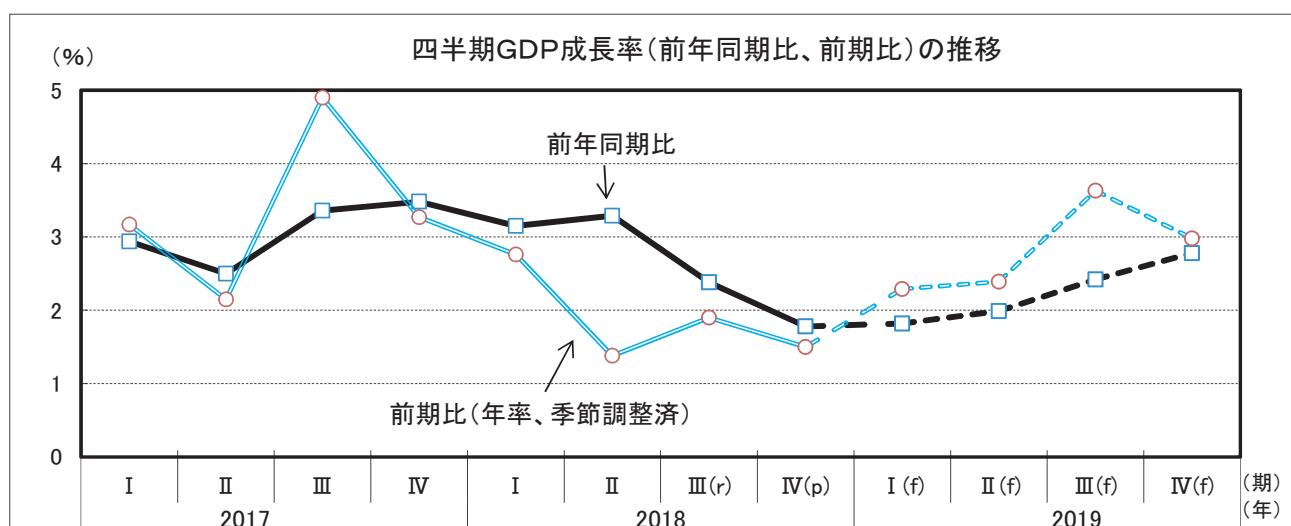
### I 概要

行政院主計総処は2月13日、2018年第3四半期の国民所得統計の修正、2018年第4四半期の国民所得統計速報値、及び2019年の経済見通しなどを発表した。概要は以下のとおり。

- 一、2018年第4四半期の対前年同期比成長率（速報値）は+1.78%、2019年1月時点の概算値から0.02%ポイントの上方修正となった。また、第3四半期は+2.38%（修正前は+2.27%）に修正。
- 二、2018年上半期（第1、2四半期の対前年同期比成長率はそれぞれ+3.15%、+3.29%）と合

わせた2018年通年の経済成長率は+2.63%となり、2019年1月時点の予測値+2.60%から0.03%ポイントの上方修正となった。一人当たりGDPは2万5,004米ドル、CPIは+1.35%の上昇となった。

- 三、2019年の経済成長率は+2.27%（実質GDPが2018年より3,808億元増）となる見通しであり、2018年11月時点の予測値+2.41%から0.14%ポイントの下方修正。一人当たりGDPは2万5,229米ドル、CPIは+0.73%の上昇となる見通し。



## II 国民所得統計及び予測

### 一、2018年第4四半期及び通年の経済成長率の速報値

#### (一) 2018年第4四半期 GDP

2018年第4四半期の実質GDP対前年同期比成長率(yoy)は+1.78%となり、2019年1月時点の概算値+1.76%から0.02%ポイントの増加となり、2018年11月時点の予測値+2.02%から0.24%ポイントの減少となった。また、季節調整後の前期比(saqr)は+0.37%、同年率換算値(saar)は+1.50%となった。

### 1、外需面について

- (1) 2018年第4四半期は世界経済の伸びが減速し、スマホの販売が予測に至らず、前年の基準値の高さなどの影響を受けて、第4四半期の輸出(米ドルベース)は前年同期比+0.10%(台湾元ベースでは+2.45%)と10四半期連続の成長となつたが、増加幅が明らかに減速した。各主要輸出品目について、例えば：鉱產品+34.22%、情報通信產品+8.88%、化学品+6.07%、となった。一方、光学器材は▲11.76%、電子部品は▲4.91%となった。サービス輸出を計上し、物価要因を控除した商品及びサービスの実質輸出の成長は+1.29%となった(2018年11月時点の予測値+0.39%から0.90%ポイントの上方修正)。
- (2) 輸入については、農工原材料の輸入が二桁の成長となつたものの、資本設備の輸入は継続的に減少しており、第4四半期の商品輸入(米ドルベース)は+6.78%(台湾元ベースは+9.29%)となった。サービス輸入を計上し、物価要因を控除した商品及びサービスの実質輸入の成長は+4.29%となった(2018年11月時点の予測値+3.53%から0.76%ポイントの上方修正)。
- (3) 輸出と輸入を相殺した外需全体の経済成長率全体への寄与度は+1.40%ポイントとなった。

### 2、内需面について

- (1) 第4四半期は、通信及び家電製品の販売不調、自動車・バイクの新プレート登録数が減少したが、総合商品及び無店舗小売業の売上好調などの影響により、小売業売上額は前年同期比+1.16%となった。サービス消費のうち、飲食レストラン業売上額は同+3.29%となった。出国者数は前年同期比+2.42%となった。9合1選挙が一部の民間消費を拡大したものの、株式取引高が▲14.52%となった。その他の各指標と併せ、物価を控除した実質民間消費の成長率(速報値)は+1.67%(2018年11月時点の予測値+2.05%から0.38%ポイントの下方修正)となり、経済成長率全体への寄与度は+0.82%ポイントとなった。実質の政府消費は+3.55%(2018年11月時点の予測値+1.54%から2.01%ポイントの上方修正)となり、経済成長率全体への寄与度は+0.52%ポイントとなった。
- (2) 民間投資は、建築工事投資が持続的に成長したものの、一部業者の資本支出計画が緩やかに減少し、航空業者による航空機の購入も減少したことから、第4四半期の資本設備輸入(台湾元ベース)は▲4.12%となった。民間固定投資は▲0.44%となった。政府投資の実質成長率+5.68%、公営事業投資+22.01%、実質在庫調整(467億元の増加)を合わせた第4四半期の実質資本形成全体は前年同期比+9.42%(2018年11月時点の予測値+12.21%から2.79%ポイントの下方修正)、経済成長率全体への寄与度は+1.84%ポイントとなった。
- (3) 以上の各項目を合わせた第4四半期の内需全体の経済成長率は+3.78%、経済成長率全体への寄与度は+3.18%ポイントとなった。

### 3. 生産面について

- (1) 農業生産は、天候に恵まれて稲等の農作物が増産となったものの、卵が2018年823の水害により減産となったことから、第4四半期の農業の実質成長率は+0.77%となり、経済成長率への寄与度は+0.01%ポイントとなった。
- (2) 工業生産は+2.35%の成長となった。このうち、製造業は米中貿易摩擦の影響を受けて、サーバー、通信設備部品業者は国内生産を引き上げたものの、電子部品業の生産が緩やかとなり、また、自動車及びその部品業は輸入車の競争により一部の成長が頭打ちとなることから、第4四半期の製造業生産指数は+3.36%となった。三角貿易の収益等を合わせた第4四半期の製造業の実質成長率は+2.53%となり、経済成長率への寄与度は+0.79%ポイントとなった。建設業は着工面積の拡大、生産活動の活況に伴い、建築用砂利、セメント、棒鋼など建築材料の国内販売が大幅に成長したことから、第4四半期の建築業の実質成長率は+5.48%となり、経済成長率への寄与度は+0.09%ポイントとなった。
- (3) サービス業について、対外貿易の減少により、第4四半期の卸売業売上額は前年同期比+1.54%に縮小した。小売業(+1.16%)を合わせた卸売・小売業全体の実質成長率(速報値)は+1.43%となり、経済成長率への寄与度は+0.24%ポイントとなった。また、電子商取引市場の活況、無店舗小売業の販売好調が貨物運輸への需要増加をもたらしたことから、第4四半期の自動車による貨物運搬量は+9.56%となり、その他水陸・航空運輸を合わせた運輸・倉庫業の実質成長率は同+3.66%となり、経済成長率への寄与度は+0.11%ポイントとなった。

### (二) 2018年の経済成長率の速報値

1. 2018年第3四半期の対前年同期比成長率(yoy)は+2.38%となり、2018年11月時点の速報値+2.27%から0.11%ポイント

トの上方修正となった。これは主に、各級政府の実際の収支データ、経済部による「製造業投資及び運営概況調査」の最新資料に基づいて修正を行ったことによるものである。季節調整後の前期比(saqr)は+0.47%、同年率換算値(saar)は+1.90%となった。

2. 2018年下半期の経済成長率は+2.08%となり、上半期の成長率+3.22%(第1四半期+3.15%、第2四半期+3.29%)と合わせた2018年通年の経済成長率は+2.63%となり、2019年1月時点の概算値から0.03%ポイントの上方修正、また、2018年11月時点の予測値+2.66%から0.03%ポイントの下方修正となった。

### 三、2019年の経済展望

#### (一) 国際経済情勢

1. IHS Markit グローバルインサイト(以下「IHS」)の最新の資料によると、2019年の世界経済の成長率は+2.9% (2018年11月時点の予測値から0.2%ポイントの下方修正)となり、2018年の成長率(+3.2%)を下回る見通しである。このうち、2019年の先進国経済及び新興経済国の成長率は、それぞれ+1.9% (0.2%ポイントの下方修正)、+4.6% (横ばい)となる見通しである。
2. 米国経済は、労働市場の持続的な改善、減税及び就業法(Tax Cuts and Jobs Act)の立法化、政府支出の拡張などの刺激策の効果が経済の持続的な拡張にプラスとなるが、不安定な金融市場が一部の成長力を抑制することから、2019年の経済成長率は前年同期比+2.5% (0.2%ポイントの下方修正)となる見込み。
3. ヨーロッパ圏は、世界貿易の成長の鈍化が対外貿易に影響を与え、加えて、2018年9月から自動車テストの新規定の実施が自動車の生産及び販売に影響し、イギリスの離脱協議の不確実性などの要因により、経済全体が低迷するものの、ドイツ、フランス、イタリアなどの国は財政刺激策を実施し、短期的に景気を持ち上げる効果が有ること

から、2019年のEU諸国の経済成長率は+1.5%（0.1%ポイントの下方修正）となり、うちドイツは+1.4%（横ばい）、フランスは+1.2%（0.1%ポイントの下方修正）、イギリスは+1.1%（横ばい）となる見通しである。

4. 米中貿易交渉の第一ラウンドにおける関税引上げを90日後に後倒して実施することを発表した後、今後の発展は両国の交渉結果次第であるものの、中国大陸は最近、多くの項目の経済振興政策を打ち出し、経済成長力の維持にプラスとなることから、2019年の経済成長率は+6.3%（0.2%ポイントの上方修正）となり、また、韓国の成長率は+2.3%（0.3%ポイントの下方修正）、香港は+2.4%（0.2%ポイントの下方修正）、シンガポールは+2.4%（横ばい）、日本は+0.8%（0.1%ポイントの下方修正）となる見通し。

## （二）2019年の国内経済予測

2019年の経済成長率は+2.27%で、2018年11月時点の予測値から0.14%ポイントの下方修正となる見通しである。これは主に、世界経済の不確実性が高まり、国内外の生産や貿易に影響を与えることによるものである。

### 1. 対外貿易

（1）世界景気の拡大が緩やかに減速し、これは主に、国際機関が相次いで2019年の景気見通しを引下げている。HISは、本年の世界経済の成長率は+2.9%と直近3年で最低になると予測し、また、スマートフォンなどモバイル通信製品への需要鈍化がサプライチェーン業者に影響を与え、半導体の在庫調整、2018年基準値の高さなどの要素が輸出の増勢を抑制することから、2019年の輸出（米ドルベース）は3,367億米ドル、前年同期比+0.19%となる見込み。商品及びサービス貿易を加え、物価要因を控除した2019年の輸出の実質成長率は+2.25%（2018年11月時点の予測値から0.81%ポイントの下方修正）となる見通し。

（2）輸入は、原材料価格の下落、輸出や内需の減少に伴う輸入の減少の影響を受け、2019の輸入（米ドルベース）は2,839億米ドル、▲0.95%となる見通し。商品及びサービス貿易を加え、物価要因を控除した2019年の輸入の実質成長率は+1.89%（1.05%ポイントの下方修正）となる見通し。

### 2. 民間消費

企業による積極的な賃上げ、「所得税優遇措置」及び基本賃金の引上げの実施等は、家庭可処分所得及び民間消費の増加にプラスとなり、また、政府が打ち出した国内旅行及び省エネ家電買い替えの補助金も民間消費の増加を押し上げるもの、少子化などの人口構造問題の要因が依然として存在し、世界景気の不確実性、金融市場の不安定などが引き続き成長力を抑制することから、2019年の民間消費の実質成長率は+2.18%（0.05%ポイントの下方修正）となる見通しである。

### 3. 固定投資

民間投資については、半導体業者が国内に優位性のある製造工程に引き続き投資し、風力、太陽光発電等のグリーンエネルギーへの投資が次々と進行し、加えて政府が投資環境を積極的に改善する中で、「台湾企業のU-タン投資誘致」案を推進し、将来を見据えたインフラ建設計画の推進が公的・私的部門の投資原動力を増大するものの、世界経済の不確実性の高まり、企業投資計画の慎重化は民間投資の成長スピードを緩めることから、2019年の民間投資の実質成長率は+3.62%（0.5%ポイントの下方修正）となる見込み。公共投資を加え、物価要因を控除した2019年の固定投資の実質成長率は+5.00%（0.40%ポイント下方修正）となる見通しである。

### 4. 物価

（1）国際機関の予測及び足下で石油価格の趨勢を参考に、2019年のOPECバスケット原油価格を1バレル=61.9米ドル（2018年11月時点の予測値から7.6

米ドルの下方修正)と設定する。

- (2) 卸売物価指数(WPI)は、足下で国際原油及び農工原材料価格が下落しているものの、台湾元レートの減価が一部の下落幅を相殺し、また、2019年は需給問題により国際原材料価格の上昇は想定し難く、為替要因もあることから、WPIは▲0.55%となる見込み(2.15%ポイントの下方修正)。
- (3) 消費者物価(CPI)は、基本賃金を引き上げにより、外食価格などの一部サービス物価に上昇圧力を加えたものの、タバコ税の引上げ効果の剥落及び国際原油価格の下落により、2019年は+0.73%(0.23%ポイントの下方修正)となる見

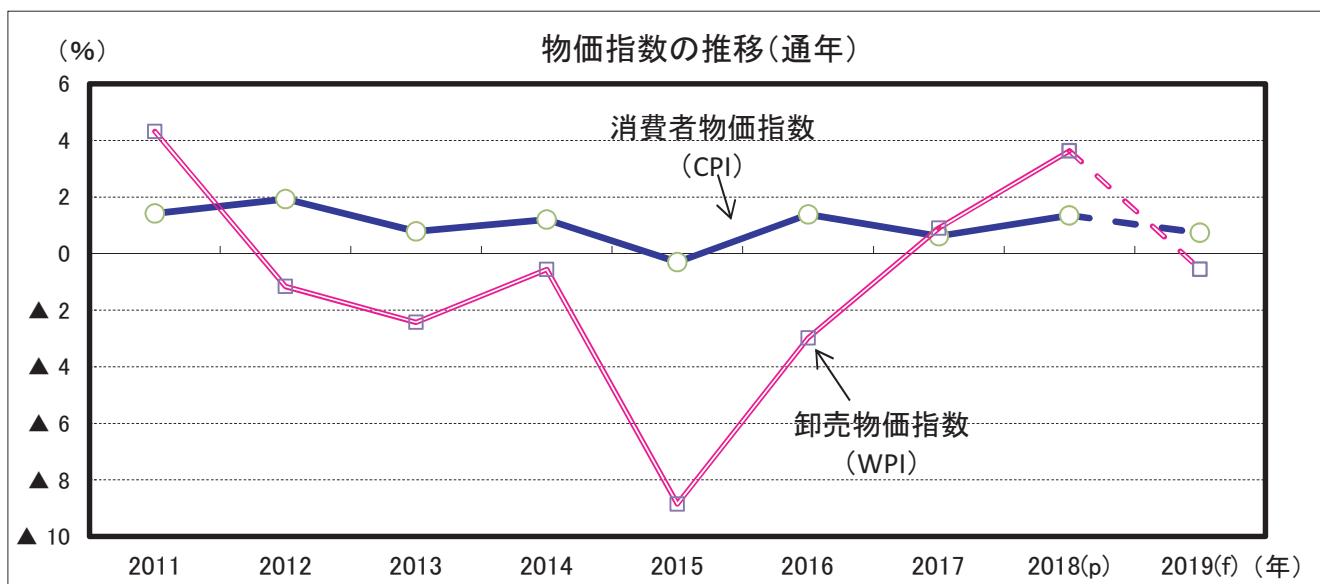
通し。

5. 以上を総合すると、2019年通年の経済成長率は+2.27%となる。一人当たりのGDP及びGNIは、それぞれ2万5,229米ドル、2万5,723米ドル、CPIは+0.73%となる見通し。

### (三) 主要な不確実性

- 1、米国及び中国の貿易摩擦の今後の進展。
- 2、欧米の中央銀行が推進する金融政策の正常化の進展。
- 3、国際的な株式・為替・債券市場の変動、及び、原油、その他の原材料価格の動向。
- 4、地政学リスクによる世界経済への影響。

(以上)



## 重要経済指標

行政院主計總處 2019年2月13日発表

	経済成長率(実質GDP)(%)			一人当たり GDP		一人当たり GNI		消費者物価上昇率(%)	卸売物価上昇率(%)	名目GDP(百万台湾元)
	前年同期比	前期比(年率換算)	前期比	台幣元	米ドル	台幣元	米ドル			
2004年	6.51	—	—	514,405	15,388	530,835	15,879	1.61	7.03	11,649,645
2005年	5.42	—	—	532,001	16,532	544,798	16,930	2.30	0.61	12,092,254
2006年	5.62	—	—	553,851	17,026	567,508	17,446	0.60	5.63	12,640,803
2007年	6.52	—	—	585,016	17,814	599,536	18,256	1.80	6.47	13,407,062
2008年	0.70	—	—	571,838	18,131	585,519	18,564	3.52	5.14	13,150,950
2009年	▲1.57	—	—	561,636	16,988	579,574	17,531	▲0.86	▲8.73	12,961,656
2010年	10.63	—	—	610,140	19,278	628,706	19,864	0.96	5.46	14,119,213
2011年	3.80	—	—	617,078	20,939	633,822	21,507	1.42	4.32	14,312,200
2012年	2.06	—	—	631,142	21,308	650,660	21,967	1.93	▲1.16	14,686,917
2013年	2.20	—	—	652,429	21,916	670,585	22,526	0.79	▲2.43	15,230,739
2014年	4.02	—	—	688,434	22,668	708,540	23,330	1.20	▲0.57	16,111,867
2015年	0.81	—	—	714,774	22,400	737,393	23,109	▲0.30	▲8.85	16,770,671
2016年	1.51	—	—	730,411	22,592	752,936	23,289	1.39	▲2.98	17,176,300
第1季	▲0.14	3.17	0.78	181,824	5,447	189,496	5,678	1.74	▲4.99	4,272,853
第2季	1.22	3.79	0.93	176,760	5,444	181,440	5,589	1.33	▲3.27	4,155,308
第3季	2.08	1.48	0.37	182,762	5,755	188,203	5,928	0.71	▲3.41	4,298,475
第4季	2.79	3.45	0.85	189,065	5,946	193,797	6,094	1.79	▲0.16	4,449,664
2017年	3.08	—	—	742,976	24,408	762,681	25,055	0.62	0.90	17,501,181
第1季	2.94	3.17	0.78	183,456	5,898	189,560	6,094	0.79	2.31	4,319,537
第2季	2.50	2.15	0.53	177,911	5,876	182,133	6,016	0.57	▲0.69	4,190,093
第3季	3.36	4.90	1.20	188,342	6,219	191,206	6,313	0.74	0.81	4,436,866
第4季	3.48	3.27	0.81	193,267	6,415	199,782	6,632	0.41	1.17	4,554,685
2018年(p)	2.63	—	—	755,561	25,048	769,092	25,499	1.35	3.63	17,777,003
第1季	3.15	2.76	0.68	186,198	6,351	193,073	6,585	1.55	▲0.12	4,388,994
第2季	3.29	1.38	0.34	184,218	6,186	186,195	6,252	1.72	4.90	4,342,607
第3季(r)	2.38	1.90	0.47	189,035	6,162	190,463	6,208	1.67	6.70	4,459,193
第4季(p)	1.78	1.50	0.37	196,110	6,349	199,361	6,454	0.46	3.12	4,586,209
2019年(f)	2.27	—	—	777,061	25,148	792,308	25,642	0.73	▲0.55	18,344,877
第1季(f)	1.82	2.29	0.57	190,503	6,165	195,366	6,323	0.49	1.39	4,478,110
第2季(f)	1.99	2.39	0.59	188,914	6,114	191,599	6,201	0.68	▲0.25	4,454,119
第3季(f)	2.42	3.63	0.90	195,252	6,319	198,525	6,425	0.64	▲2.42	4,625,080
第4季(f)	2.78	2.98	0.74	202,392	6,550	206,818	6,693	1.08	▲0.82	4,787,568

r : 修正値、p : 速報値、f : 予測値

## GDP の各構成項目の寄与度（対前年同期比）

(単位：%)

	GDP	国内需要	民間消費	政府消費	固定資本形成				民間投資				公営事業投資	政府投資	国外需要				
					成長率	寄与度	成長率	寄与度	成長率	寄与度	成長率	寄与度			成長率	寄与度	成長率	寄与度	
2011	3.80	0.57	0.53	3.12	1.65	1.95	0.29	▲1.15	▲0.27	1.20	0.21	▲13.44	▲0.24	▲5.78	▲0.24	3.27	4.20	2.98	▲0.46
2012	2.06	0.63	0.59	1.82	0.99	2.16	0.33	▲2.61	▲0.61	▲0.35	▲0.06	▲7.42	▲0.11	▲10.95	▲0.44	1.47	0.41	0.30	▲1.78
2013	2.20	2.03	1.88	2.34	1.28	▲0.79	▲0.12	5.30	1.18	7.09	1.24	2.99	0.04	▲2.79	▲0.10	0.32	3.50	2.46	3.40
2014	4.02	3.71	3.37	3.44	1.86	3.66	0.54	2.05	0.46	3.58	0.63	4.95	0.07	▲7.52	▲0.24	0.65	5.86	4.07	5.67
2015	0.81	1.91	1.71	2.63	1.40	▲0.10	▲0.02	1.64	0.36	3.02	0.53	▲7.09	▲0.09	▲2.74	▲0.08	▲0.91	▲0.37	▲0.26	1.09
2016	1.51	2.14	1.86	2.37	1.23	3.60	0.50	2.36	0.49	2.84	0.49	▲3.87	▲0.04	1.59	0.04	▲0.35	1.92	1.24	3.08
I	▲0.14	2.10	1.84	2.79	1.44	6.52	0.88	0.10	0.05	0.45	0.05	▲4.55	0.00	▲1.60	0.01	▲1.98	▲4.22	▲2.74	▲1.51
II	1.22	0.95	0.79	1.74	0.90	2.30	0.32	0.22	0.04	1.53	0.26	▲4.20	▲0.05	▲6.22	▲0.16	0.42	▲0.01	0.02	▲0.54
III	2.08	2.60	2.26	2.81	1.47	3.43	0.48	3.49	0.72	3.99	0.68	▲7.51	▲0.07	3.80	0.10	▲0.17	3.44	2.23	4.65
IV	2.79	2.87	2.51	2.11	1.13	2.49	0.34	5.34	1.11	5.42	0.95	▲1.22	▲0.05	7.55	0.21	0.28	8.00	5.15	9.41
2017	3.08	1.24	1.08	2.54	1.34	▲0.63	▲0.09	▲0.12	▲0.02	▲1.09	▲0.17	0.17	0.00	5.77	0.15	2.00	7.43	4.66	5.28
I	2.94	2.33	2.07	1.97	1.08	▲4.46	▲0.63	4.88	0.99	3.92	0.70	18.75	0.12	8.28	0.17	0.87	7.29	4.46	7.22
II	2.50	2.20	1.94	2.32	1.23	1.43	0.20	1.07	0.22	0.60	0.10	▲8.08	▲0.09	8.81	0.21	0.56	4.89	3.04	4.95
III	3.36	▲0.28	▲0.25	2.64	1.38	1.61	0.23	▲2.41	▲0.53	▲4.00	▲0.70	▲1.13	▲0.01	7.18	0.18	3.61	11.39	7.15	7.00
IV	3.48	0.79	0.68	3.23	1.63	▲1.23	▲0.18	▲3.26	▲0.69	▲4.60	▲0.72	▲0.67	▲0.01	1.57	0.04	2.80	6.10	3.94	2.31
2018(p)	2.63	3.22	2.81	2.05	1.08	3.51	0.49	2.10	0.43	1.46	0.24	13.56	0.14	1.82	0.05	▲0.18	3.66	2.38	4.90
I	3.15	2.57	2.32	2.55	1.44	6.63	0.86	0.36	0.08	0.62	0.13	▲2.92	▲0.02	▲0.84	▲0.03	0.83	6.42	4.01	6.19
II	3.29	1.82	1.64	2.29	1.23	5.87	0.83	0.02	0.01	▲0.12	0.00	4.76	0.05	▲1.44	▲0.04	1.65	6.33	3.96	4.53
III(r)	2.38	4.66	3.99	1.69	0.88	▲1.47	▲0.21	5.51	1.14	5.48	0.92	21.40	0.19	1.57	0.04	▲1.61	1.35	0.89	4.68
IV(p)	1.78	3.78	3.18	1.67	0.82	3.55	0.52	2.29	0.45	▲0.44	▲0.10	22.01	0.33	5.68	0.21	▲1.40	1.29	0.85	4.29
2019(f)	2.27	2.04	1.83	2.18	1.17	▲0.03	0.00	5.00	1.05	3.62	0.62	8.63	0.10	11.96	0.33	0.44	2.25	1.50	1.89
I(f)	1.82	1.93	1.77	1.79	1.05	▲2.55	▲0.37	3.14	0.65	2.37	0.46	7.24	0.04	8.59	0.15	0.04	0.40	0.24	0.37
II(f)	1.99	1.95	1.74	1.98	1.08	▲3.32	▲0.48	6.39	1.30	4.87	0.82	17.42	0.18	11.92	0.30	0.25	2.07	1.33	2.10
III(f)	2.42	1.80	1.62	2.46	1.30	3.40	0.47	2.70	0.62	1.02	0.22	7.92	0.08	12.02	0.32	0.80	3.19	2.18	2.28
IV(f)	2.78	2.47	2.16	2.48	1.24	2.03	0.32	7.84	1.60	6.74	0.95	4.92	0.11	13.62	0.54	0.62	3.14	2.18	2.70

(出所) 行政院主計總處 2019年2月13日發表  
(注) r : 修正值、p : 運報值、f : 預測值



## 2018年第4四半期の国際収支統計

2019年2月22日 台湾中央銀行発表  
(仮訳)



### ◆概要

2018年第4四半期の国際収支は、経常収支が186.5億米ドルの黒字、金融収支が178.8億米ドルの純資産の増加、中央銀行準備資産が22.2億米ドルの増加となった。

### ◆内訳

#### (1) 経常収支

経常収支の黒字額は、前年同期比ベースで、69.9億米ドル減少の▲27.3%となった。

① 貿易収支の黒字は、前年同期比54.5億米ドル減少の174.7億米ドルの黒字となった。世界経済の減速と前年の基準値の高さの影響を受けて、輸出は前年同期比62.5億米ドルの減少となった。輸入については、輸出と連動する品目への需要の減少を受けて、前年同期比8.0億米ドルの減少となった。

② サービス収支は、主に製造サービスにかかる支払いの減少と旅行にかかる受け取り増加が寄与し、前年同期比7.3億米ドル減少の7.8億米ドルの赤字となった。

③ 第一次所得収支は、主に対外投資による受取所得の減少の結果として、前年同期比22.0億米ドルの減少の27.9億米ドルの黒字となった。

④ 第二次所得収支は、主に前年同期より貿易取引の罰則にかかる受取の増加を反映し、前年同期比0.6億米ドル増加し、8.3

億米ドルの赤字となった。

#### (2) 金融収支

① 直接投資は、58.4億米ドルの純資産の増加となった。このうち、居住者による対外直接投資、及び、海外投資家による対内直接投資は、それぞれ73.5億米ドル、15.1億米ドルの純増となった。

② 証券投資は、162.1億米ドルの純資産の増加となった。このうち、居住者による対外証券投資は、主に海外ファンドや保険会社による海外の証券投資の増加を受けて、131.0億米ドルの純増となった。一方、非居住者による対内証券投資は、主に海外投資家による台湾株式保有額の削減を受けて、31.1億米ドルの純減となった。

③ 金融派生商品の純資産は、主に民間部門の金融派生商品の処分損にかかる支払いの結果による負債の減少を受けて、1.2億米ドルの増加となった。

④ その他投資の純資産は、主に銀行部門による海外融資の減少を受けて、43.0億米ドルの減少となった。

#### (3) 国際収支の要約（2018年通年）

2018年通年において、経常収支は682.6億米ドルの黒字、金融収支は519.2億米ドルの純資産の増加、中央銀行の準備資産は125.0億米ドルの増加となった。

(了)

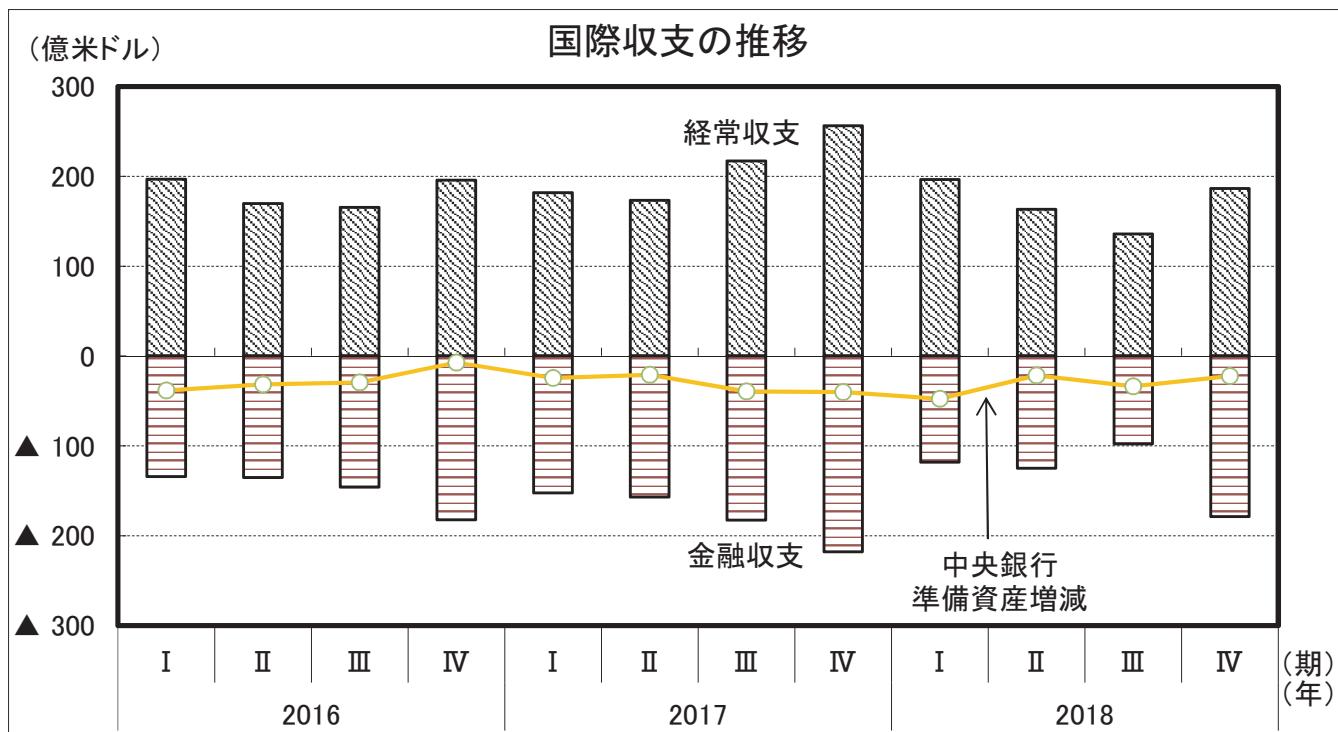
## 国際収支の推移

(単位：億米ドル)

	2016(r)					2017(r)					2018(p)				
		I (r)	II (r)	III (r)	IV (r)		I (r)	II (r)	III (r)	IV (r)		I (r)	II (r)	III (r)	IV (p)
経常収支	727.8	196.8	169.7	165.6	195.6	828.4	181.8	173.3	217.0	256.4	682.6	196.6	163.5	136.0	186.5
貿易収支	706.5	172.1	171.4	170.6	192.5	808.7	166.9	175.1	237.5	229.2	677.3	165.4	179.7	157.6	174.7
輸出	3,099.7	712.9	761.8	775.8	849.2	3,498.4	786.5	845.5	909.6	956.8	3,534.5	831.4	909.8	899.0	894.3
輸入 (▲)	2,393.2	540.8	590.4	605.2	656.7	2,689.7	619.6	670.4	672.1	727.6	2,857.1	666.0	730.1	741.4	719.6
サービス収支	▲103.5	▲22.1	▲25.1	▲34.8	▲21.5	▲86.8	▲19.9	▲22.8	▲29.1	▲15.1	▲68.2	▲14.0	▲23.4	▲23.1	▲7.8
第一次所得収支	156.5	52.4	32.3	39.1	32.7	147.6	44.8	31.7	21.3	49.9	106.7	54.4	14.5	9.9	27.9
第二次所得収支	▲31.6	▲5.5	▲8.8	▲9.2	▲8.1	▲41.1	▲10.0	▲10.7	▲12.7	▲7.7	▲33.3	▲9.2	▲7.4	▲8.4	▲8.3
資本移転等収支 (▲)	▲0.1	▲0.0	▲0.1	0.0	▲0.0	▲0.1	▲0.0	0.0	0.0	▲0.1	0.6	0.0	0.0	0.1	0.6
金融収支 (▲)	597.6	134.1	135.1	146.1	182.3	709.6	152.3	156.8	182.7	217.8	519.2	118.0	124.8	97.7	178.8
直接投資 (▲)	86.9	21.2	28.5	41.9	▲4.7	82.6	17.3	29.8	18.6	17.0	110.3	18.3	▲7.5	41.0	58.4
証券投資 (▲)	788.2	171.2	153.0	218.0	246.0	779.3	261.2	50.2	330.1	137.8	807.0	274.7	218.8	151.3	162.1
デリバティブ(▲)	17.0	0.9	▲0.1	7.2	9.0	▲5.0	▲4.0	1.4	▲1.0	▲1.4	16.4	0.0	4.6	10.5	1.2
その他 (▲)	▲294.5	▲59.2	▲46.2	▲121.0	▲68.0	▲147.4	▲122.1	75.4	▲165.0	64.4	▲414.4	▲175.1	▲91.2	▲105.1	▲43.0
中銀準備資産変動 (▲)	106.6	38.5	31.5	29.5	7.2	124.7	24.3	20.8	39.3	40.2	125.0	47.6	21.6	33.6	22.2

(出所) 2019.2.22 中央銀行発表

r : 修正値 p : 速報値



## 【台湾魅力発信】 李永得・客家委員会主任委員特別インタビュー

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所  
総務室主任 寺山 学

今般、台湾の新たな魅力発信との観点から、客家政策を所管する行政院客家委員会の主任委員（大臣に相当）を務める李永得・客家主任委員から、台湾客家人の現状や客家文化の魅力についてお話を伺いました。

- ・インタビュー実施日 2019年2月25日
- ・インタビュー実施場所 行政院客家委員会
- ・インタビュアー 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所総務室主任・寺山学

~~~~~<李永得・客家委員主任委員略歴>~~~~~

- ・出身：高雄市美濃区
- ・学歴：国立政治大学政治学科卒業
- ・主な経歴：  
行政院客家委員会主任委員（2005年～2008年）  
高雄市政府副市長（2008年～2014年）  
高雄市政府顧問（2014年）  
行政院客家委員会主任委員（現在～）



（寺山）まず、台湾の客家文化とは何か、台湾で人口の多数を占めるミンナン文化とはどう異なるのかについて教えてください。

（李主任委員）「客家」とは何か。客家アイデンティティの基は客家文化にあり、客家文化の最大の要素は「客家語」にあると言えます。民族的に異なる原住民族とは違い、同じく漢民族である客家人とミンナン人（閩南人）、外省人とは外見上では殆ど区別することができません。そのため、客家人意識の根底には独自の言語があり、言語が客家文化の核心的要素であると言えます。客家人は「客家語がなければ、客家人は存在し得ない。」と

よく言いますが、言語は他のエスニシティとの最大の違いなのです。

客家人の信仰については、多くの客家人はミンナン人を同様、媽祖などの神様を信仰します。他方で、客家人独自の信仰は「義民信仰」です。台湾北部と南部では呼び方こそ異なるものの（北部：義民、南部：忠勇公）、義民信仰は客家人共通の信仰であると言えます。後述のとおり、客家人は伝統を重んじ、外敵に対して団結して戦います。そのため、故郷を守るため亡くなった人々は「義民」として廟で手厚く奉られ、それが時代と共に神格化され、次第に義民信仰として客家人共通の信仰となっていきました。



義民廟總本山（新竹県新埔郷）



苗栗鐵道文物展示館（苗栗市）

六堆客家文化園区（屏東県内埔郷  
南部客家について展示）

客家文化を象徴するもう一つの要素は、客家料理です。中でも「客家小炒」という料理は最も典型的な客家料理だと言えます。「客家小炒」は豆腐干、イカの一夜干しとお肉を炒めたものです。客家料理の特徴としては、住民の多くが丘陵地帯に住んでいることから、伝統的に海鮮をあまり使用しないこと、また漬け物と干し物が頻繁に用いられることが挙げられます。

客家人とミンナン人の個性の違いについて言えば、ミンナン人は中国大陸において比較的沿岸地域で生活してきたため、その個性は「海洋的」で「冒險家」的な個性を持っています。これに対し、中国大陸でも丘陵地域や山間部の資源が乏しい地域に暮らすことが多かった客家人は、非常に「保守的」で「慎重」な性格だと言えます。ビジネス面でも、保守的な客家人は、他人から借錢すること

とを嫌う傾向が強く、自身が所持している資金だけで商売する傾向があります。そのため、台湾の大手企業のオーナーにミンナン人が多いのに対し、客家人が経営する企業は小規模で、保守的な経営を行うものが多いです。

また、職業面では、客家人は伝統的に教育を重視しており、教職に就く者が多いです。また公務員、警察においても客家人の割合は高いです。興味深いのは、伝統的に鉄道局職員における客家人の割合が極めて高いことです。何故、鉄道関係者に客家人が多いのか、まだ十分な学術的な研究がなされていませんが、歴史的に資源に乏しく過酷な生活環境にあった客家人だからこそ鉄道建設という重労働に耐えることができたとの見方もあります。以前は、鉄道の切符を買うとき、中国語で話すと「売り切れ」と言われるが、客家語で話すと切符を売ってくれるという笑い話もあったほど、鉄道局には客家人が多かったのです。

(寺山) 客家の精神や性格を表す言葉として、「硬頸精神」(※直訳すると「首が硬い精神」、「粘り強い」という意味の他、「簡単に首を縦に振らない」との意味もある) という言葉もありますね。

(李主任委員) 「硬頸精神」には、良悪二つの意味があるため、中にはこの言葉を認めたがらない客家人もいます。「硬頸精神」には、自分が正しいと

思うことは、どんな困難にも屈しないというプラスの意味がある一方で、頑固すぎて話しにならないというマイナスの意味があります。確かに客家人はこの言葉のように両極端の性格を兼ね備えているようにも感じます。実際、客家人は平時においては時の統治者の言うことを素直に聞く傾向があり、「保皇派」とも揶揄されます。その一方で、非常時においては「革命的」な性格を見せることがあります。実際、太平天国の革命を起こした洪秀全、中華民国を建国した孫文、朱徳を始めとする共産革命の指導者は皆客家です。台湾でも同様で、1977年の中壢事件を始め多くの反政府の革命的な動きに客家人が関わっています。また、1895年に日本が台湾に進出した際に最も激しく抵抗したのは客人でした。日本軍は当時、基隆から上陸し、辜顯榮氏の助けもあり、わずか10日で台北に入ることができましたが、その後、南下すると新竹、苗栗で激しい抵抗に遭いました。ここで日本軍に立ち向かった者の多くが客家だったのです。彼らは兵力に歴然たる差があることは理解していましたが、外敵から自身の家族を守るために自らの命を犠牲にして、勇敢に日本軍に立ち向かっていきました。非常時において、おとなしく服従するのではなく、守るべきものため自己犠牲の覚悟こそ客家の「硬頸精神」なのです。こうした精神には、当時日本軍の兵士も強い感銘を受けたと聞いています。なぜなら、客家のこの精神は、日本の「武士道」に通ずるものがあったからです。この歴史は、「1895」という全編客家語の映画にもなっています。是非、皆さんにご覧になって頂きたいです。

(寺山) 先ほど李主任委員から客家の教育について言及がありましたが、台湾の客家地域に行くと、「敬字亭」と呼ばれる文字が書かれた紙を処分するための焼却炉を目します。これも教育を重視する客家ならではの伝統文化と言えますね。



敬字亭（高雄市美濃区）

(李主任委員) その通りです。客家人は教育を特に重視してきましたが、その延長で文字を神聖化する考えが生まれました。客家人は文字には魂が宿ると信じ、本や文字が書かれた紙は神聖な焼却炉で大切に処分されなければならないと考えられてきました。

(寺山) 李主任委員から「客家語」は客家文化の重要な構成要素であるとの話でしたが、話し手が減っている客家語の状況に鑑み、客家委員会は設立以来、客家語の普及に力を入れ、客家テレビ局を設立するなど様々な施策を講じられてきました。こうした政府の努力の結果として、客家語の普及の面ではどのような成果が得られましたか。

(李主任委員) 客家委員会は設立以来、客家語の普及のため様々な努力を行ってきました。その努力の成果については以下の2つの面から述べることができます。まず、客家語普及活動を通じて、客家の間で客家意識を向上させることができました。20年以上前は、多くの客家にとって、自分が客家であることはなかなか公言

することができませんでした。それは、客家人であることで当時の（国民党）政府から様々な不利益を受け、また台湾の人口の七割を占めるミンナン人とも歴史的に様々な軋轢が生じていたためです。実際、ミンナン人と客家人の間には深い対立の歴史があり、かつては客家人がミンナン人と結婚すると言うと、客家人の両親や親族に強く反対されることがよくありました。こうした状況が変化し、客家人意識が台頭する契機となったのは、2000年の民進党政権の発足です。国民党時代には「国語」を話す人がエリートとの刷り込みが行われましたが、民進党政権の発足を契機に文化の多様性が重じられ、「客家語」を含む台湾土着の言語も重視されるようになりました。こうした政策の変化によって、人々の間で意識変革が生じ、客家人は自身が客家人であることを堂々と公言できるようになったのです。

その一方で、政府の施策が衰退の一途にある客家語の普及にどれほどの効果があったかについては、率直に言って「入不敷出（※プラスもあるが、マイナス分の方が大きいとの意味）」と言わざるを得ない状況です。政府として多くの努力を行ってきましたが、客家語の衰退のスピードはそれ以上に早く、衰退の速度を緩めることはできても、衰退自体を食い止めるまでには至っていません。

我々は考え方を変える必要があると感じます。客家語の衰退を食い止めるためには、客家語教材を充実させ、学生に客家語の学習を促すだけでは不十分であり、それよりも重要なことは、日々の生活において客家語を話す環境を作っていくことだと思います。教育面では、客家語自体の教育ではなく、客家語を用いた教育を行うことにより注

力すべきだと思います。この点、昨年修正が行われた客家基本法が重要な役割を担うことを期待します。今次基本法の成立によって、客家語が正式に台湾の「国語」の一つと認められ、また客家語人口が全人口の半分以上を占める自治体を「客家地区（客家莊）」と指定し、同地域において客家語の使用を促す施策を講じていくことが決まりました。これにより、同地域の学校、病院や市役所といった公的機関において、客家語の使用が奨励されるようになります。最近の興味深い例としては、先日客家地区で行われた警察の強盗対策訓練において、犯人役から警察役まで参加者全員が客家語で訓練を行った試みが挙げられます。

（寺山）日本には「崇正会」という在日客家人が参加する組織があるなど、日本と客家の関係は歴史的に深い関係にあると思います。現在の客家人と日本との関係についてどう見ますか。

（李主任委員）日本には多くの客家人が生活しています。客家人の特徴として世界中の何処でも少数派であるため、客家人同士で団結する傾向が強いことが挙げられます。日本の客家人も同様で、「崇正会」という組織を結成し、客家人同士で強い繋がりを深めてきました。「崇正会」の活動によって、在日客家人の間で客家人としての意識が維持されてきました。また、日本の学術界における客家研究は非常に進んでおり、日本の民族博物館にも多くの客家関連の文物が所蔵されています。さらに、有名な宝塚歌劇団でも在日客家第二世代の方（謝珠榮氏）が活躍されています。このように、日本と客家は非常に深い関係にあると言えます。



## 台湾ランニング事情 第11回 2019日月潭周回ロードレース

石原忠浩（台湾・政治大学日本研究プログラム 助理教授）

（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

春節前の1月下旬、台湾中部南投県に位置する中部随一の観光地である日月潭で開催された「Merrell 2019 日月潭櫻舞飛揚環湖路跑賽」（桜舞う日月潭一周ロードレース）に生涯初のペースメーカーの一人として参加した。

### 1. ペースメーカーとしてのレース参加

2018年秋冬のフルマラソンの参加レースは12月上旬の台北マラソンを皮切りに、1月上旬、2月下旬、3月上旬と4本走る計画を立てた。1月上旬のレースから2月下旬のレースまでの5週間、2月上旬には台湾では、暴飲暴食必至の春節休みもあるところ、刺激をいれるためにも手頃な調整レースを模索していたところ、日月潭のレースに行き当たった。参加経験者によると日月潭のコースは、アップダウンが激しく、記録を狙えるコースでは無いが、湖畔の周回コースは絶景も多く、「一走」の価値ありと聞いていた。

日月潭の定番コースはフルマラソンと29Kとなっている。この半端な距離は、日月潭湖畔1周の距離である。30キロは、時間的に余裕のある週末にLSD練習で馴染みのある距離である。同レースの参加者への景品（台湾人はレース参加を決定する際に、シャツのメーカー、完走メダル、スポンサー提供による「お土産」などコストパフォーマンスを極めて重視する）を品定めしようとすると「ペーサー募集」の表示が筆者を引き込んでいった。

そこには、ペーサーへの「報酬」として、「（スポンサーの）Merrell運動靴の贈呈、エントリー料無料」という魅力的な紹介が目に入り、募集人員も42Kが3時間30分から345,400・・・と15

分ごとに6時間まで、29Kは2時間30分から245,300・・・と同様に15分割みで4時間までということで、フルマラソンのための調整練習ということで29Kを優先し、1キロ平均約6分10秒ペースとなる3時間を選択し応募した。応募者は、最近走った3レースの最速記録を自己申告することになっている。

ペースメーカーの報酬は東京マラソンなどのメジャー級の大会になれば、相場は1万ドル以上にもなるようだが、彼らには、有力選手が大会で好記録を出すことを手助けするための役割が期待されており、具体的には、一定のペースで有力選手をストレスなく30Kまで引っ張る事と同時に有力選手の風除けになり彼らの体力を温存してもらうことではないかと思う。しかしながら、本レースのようなFun Runningあるいは市民マラソンにおいては、有力選手が好記録を狙うアシストではなく一般ランナーが走る際の目安になることが求められているように思う。したがって、筆者が知る限り、台湾のレースにおける「報酬」は、シャツ、タオル等の現物支給やエントリー代免除などがほとんどのようである。本レースでも、靴、シャツ、エントリー料が免除されているが、筆者は風光明媚な観光地でのレースであれば、十分な待遇だと思う。

応募はしたものの、未経験者であることを考えれば選抜される自信は正直なかったが、数日後に

表1 日月潭周回マラソンのレース概要

|        | フル 42K | 湖畔一周 29K | 挑戦 12K | 健走 12K |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| エントリー費 | 1200 元 | 1000 元   | 700 元  | 500 元  |
| スタート時刻 | 06:30  | 06:35    | 06:40  | 06:50  |
| 制限時間   | 6 時間半  | 4 時間半    | 2 時間   | 3 時間   |
| 完走者    | 726    | 2168     | 不明     | 不明     |

主催者から連絡があり、「応募に感謝します。29K のペーサーをお願いしたい。3 時間 45 分のペーサーです」とのことであった。高低差のあるコースで 29K を 2 時間半（1 キロ平均約 5 分 10 秒）で走れと言われば、躊躇もするが、ジョギングより遅いペース（1 キロ平均 7 分半）であれば、問題ないと考え快諾となった。

主催者からは、可能な範囲で 11 月に事前の試走会にも参加してほしい旨の要請があったが、日程が合わず試走会への参加はかなわなかつたが、自主練習する際には、キロ 7 分半ペースというのを意識してレースに臨むことになった。

レース 1 か月前には Merrell 社の靴が届き、主催者からは、「当日のレースもこれを履くことを奨励する」旨の連絡があり、試走をしてみたが、普段履きなれた靴とは構造がかなり異なり、違和

感があるので、とりあえず現場まで持ち込み、ペーサー全員が提供された靴を履いているようなら自分も履くが、他のペーサーも自分の靴を履いているようであれば履きなれた靴を履くという二段構えで迎えることにした。

## 2. 著名観光地の日月潭

日月潭は英語名が Sun Moon Lake と示すように、太陽と月の形をした池からなる総称であり、台湾中部の南投県魚池郷日月村に位置している。当該地域に居住している民族は主にブヌン族と邵族（サオ族）である。後者のサオ族は 2018 年 12 月現在、その人口数は、794 人となっており、台湾当局が認めている 16 の原住民族中 14 位となっている。ちなみに、サオ族より人口の少ない原住民族は、以前はサオ族と同一族とみなされていたが、



図1 2019 日月潭櫻舞飛揚環湖路跑賽のコース



図2 コースの標高

最近別の民族と認定された拉阿魯哇族（サアロア族）407名と卡那卡那富族（カナカナブ族）342名であり、ともに旧高雄県の山地地域に居住している。

日月潭の湖面面積  $7.93\text{km}^2$  は、台湾では曾文ダムに次ぎ、二位の面積であり、自然湖に限ると最大の湖である。数字ではイメージが湧きにくいが、約  $8\text{ km}^2$  という大きさは、2016年8月に日月潭と友好交流協定を締結した浜名湖の  $64.92\text{km}^2$  と比べるとかなり小さく感じるが、富士五湖最大の山中湖の  $6.80\text{km}^2$  より一回り大きいことを比較すると、それほど小さい湖ではないことがわかると思う。

海面の標高は 736M と高く、台湾中部に位置しているものの気候は年間を通して温暖で夏は涼しく、冬も温暖である。台湾で最も暑い7月の平均気温で比較すると台北 29.6 度に対し日月潭は 23.0 度、最も寒い1月は台北 16.1 度に対し、14.2 度となっている。

日月潭とその周辺は、交通部觀光局が設置している 13 ある国家風景区の一つに指定されている。日本においては、2002 年に日本アジア航空の CM で志村けんと金城武により紹介されたこともあり、知名度のある観光地であるかもしれない。また同地は、中国人が団体旅行で台湾觀光をする際に、台北 101 ビル、タロコ渓谷、阿里山などとともに必ず立ち寄る観光地であり、中国人にとっても人気スポットになっている。

なお、レースに際して台北や高雄からの参加者は、前日泊が必要である。台北から最速で到達す

る場合は台湾新幹線で台中まで行き、南投客運バスに乗り継ぎ約 2 時間半～3 時間程度、安く行こうとするなら直通バスの国光客運の直行便で、3 時間半から 4 時間で到着する。

### 3. レース概況

本大会のレースは 42K、29K の他に挑戦組 12K、健走組 12K に分かれている。健走は日本で言うところの Walking である。この組は、ランのコースが全線車道を走るのに対し、ファミリー、年配の人々向けに湖畔沿いの遊歩道を散歩するコースであり、体力にあまり自信が無いかのんびり自然を満喫したい人向きである。主催者は 42K, 29K の完走者数しか公表しなかったが、当日の新聞報道では総数 5500 人が参加と報じていたので、エントリー数は 29K が最多だったと思われる。

事前に 29K, 42K はラスト 3 キロ「地獄上坡」（地獄の上り坂）と呼ばれ、疲弊したランナーを苦しめると聞いていたが、コース図を眺めると、42K のコースは 32K 地点で海拔 400M まで下って折り返した後、最後の 10K で 300M 以上標高をかせぎゴールにたどり着くかなりハードなコースである。このタフなコースで 42K、3 時間半のペーサーを担当する者は、フルマラソンを楽に 3 時間切れる猛者でないと務まらないはずである。

### 4. 当日のレース：キロ 7 分ペースを意識して臨んだが・・・

レース当日の朝はスタート 2 時間前の 4 時半に

起床、軽い朝食をとった後、宿を5時過ぎに宿を出る。湖畔の道路は早朝4時台から交通規制がされ、大部分の参加者は湖畔を一周するシャトルバスを利用して移動する。筆者も水社部落からシャトルバスに5時半前に乗りこみ、15分でスタート場所の向山ビジターセンターに到着する。夜明け前の6時の気温は15度で、空気は澄み渡り、適度な湿気もあり、快適である。



スタート前のペーサー集合写真

まだ暗い会場内に入り、足早にペーサー用のテントを探し出し、関係者への挨拶を簡単に済ませ、急かされるように黄色のペーサー用ランニングシャツを着こみ、かなり派手で30cm四方もあるうかという大型の風船（ヘリウムガス？）が入っており上空に飛んでいかないように気をつけつつ）をシャツの背中部分にくくりつけ終わるや否や「ペーサーは記念写真撮影のため全員集合！」の声がかかり、慌ただしくテントを飛びだし、スタート地点へ移動しての全体集合撮影を終える。スタート地点に移動する際、筆者は、目ざとくペーサー諸氏の足元に目を凝らしたが、スポンサー提供の靴着用の者は少数派だったのを確認し、即座に自分の靴に履き替えた。

スタート地点に整列していると、目立つ風船とPacerシャツのおかげで、参加者から「あなたは1キロ何分で走るのか？」等の声がかかると「7

分前後、でも最後の上り坂は8-10分かかると思う」と無難な回答をしておく。この時点でようやく、345組の同走女性二人を見つけ、挨拶となる。二人は同コース経験者と聞き安堵する。基隆、南投からの参加である。



号砲！

気になっていた平均ペースについて、「平坦なコースなら、平均ペースはキロ7分半で大丈夫だと思うが、後半の上り坂を考えると前半7分、最後の上り坂は8分前後くらいかな？」と問えば、南投女子は「前半7分ペースは遅すぎる。給水給食、トイレ休憩を考慮すれば6分半ペースが安全。もし、速すぎても、最後の坂道で歩いて調整すればいいのよ。」と当方の提案はあえなく却下される。やはり、平均ペースで走るよりも前半に貯金を作つて最後に調整という考え方のようである。

定刻通り、6時半に42K、5分後に29Kがスタートする。号砲から自分がスタート地点を通過するまでに3分を要しており、この3分のロスも加算して計算する必要があることを肝に銘じる。スタート直後は、多少の混雑があったが周囲のペースに乗る形で6分半での入りになった。

10分も走ると湖岸沿いに絶景ポイントが現れ、多くのランナーが早くも立ち止まり記念撮影に興じている。3キロ過ぎには、観客と声援が最も多かった水社地区を通過し、ゆるい上り坂を登る途

上で初めての給水となる。普段は慌ただしくコップをつかみ、止まることなく口に含んで駆け抜けていくが、今回は立ち止まって、ゆっくり賞味する。同走の基隆女子が周囲に、「飲み終わったらそろそろ出発だよ」と周囲に声をかけ、再び走り出しが、同時に「あなたの風船はどこにいったの?」と問いかかれ、慌てて背中を確認するとシャツに結びつけていた風船が消失していた…並走していたランナーから、「あなたの風船はさっき、上空に消えていったよ」とのことであった。

気持ちを切り替えて走り出しがオーバーペースとなり、我々より15分速い330チームのペーサー1人を追い越してしまう。彼女には、「あなたたちは345なのに速すぎないか」と嗜められ、ペー



2 K 地点、すでに筆者の風船は消失していた…



湖を見下ろす

スダウンを余儀なくされる。5 K の通過は34分と少しペースが落ち着く。7キロ手前で湖畔北部のハイライトでもある文武廟に到着した。同廟は日本統治時代の1938年に建立された中華風建築物である。日月潭を見下ろせる絶景ポイントのため多くのランナーが完全に立ち止まり、記念撮影タイムとなる。我々ペーサーは、即席カメラマンとなり、ランナー達の撮影を手伝い、2分ほどの小休止となる。こういう緩い感覚は非常に楽し



文武廟



焼き長餅に群がるランナー

い。7K過ぎに二度目の給水、この際トイレに寄ろうかと考えたが、長蛇の列にて諦めると、南投女子が「次のエイドの近くには、公衆トイレがあるのでそこで用を足せばタイムロスが防げる」というアドバイスを頂戴し、しばし我慢をして先を進む。10K過ぎで公衆トイレに駆け込み、私設のエイドから水をもらう。時間的に焦ることなく、給水とトイレを「満喫」できることに小確幸を感じる。10Kは1時間13分台で通過、この5Kは小休憩もあったため1キロ平均7分半以上もかかる。エイドに関しては驚くほどのものは無かったが、網で焼いた長餅にきな粉を塗した「きな粉餅」とひき肉団子スープは適度な甘さと塩気がランナーに優しく秀逸だった。

10K以降は小刻みなアップダウンがあり、ペースを一定に保つのに苦労する。スタート地点から対岸に位置する伊達邵部落で12K組はゴールとなる。彼らはここで水や完走証をもらった後、遊覧船で対岸のスタート地点へ戻る。15Kは1時間47分台で通過、この5Kもキロ平均7分であったが、ペースが一定しないため予想以上に疲労を感じる。GPS機能付の時計は、当初想定していたキロ7分半に設定し、同ペースより30秒以上誤差が出ると警告する設定にしていたため、ペースの乱れで、頻繁に警告モードが作動し、電



台湾中部の山村風景



地獄坂

池の消耗が激しくなり、18K地点で電池切れのアクシデントに見舞われた。そのため後半10Kは南投・基隆女子にその都度ペースを尋ねる必要に駆られ、彼女らへの依存をさらに深めることになった。

飲みすぎ、食べすぎ? のせいか20キロ過ぎに二回目のトイレ休憩に立ち寄った後のコースは湖から離れ、ビンロウが生い茂る台湾中南部の山村風景になり、台湾の田舎を感じる。数は少なかったが桜も垣間見えた。25Kを通過し、42Kとコースが別れる所で、標高100Mを稼ぐことになる3Kの急坂が始まる。この坂では、南投女子の指示で時間調整のため歩くことにしたが、この辺りでは、ほとんどのランナーが歩きだしており、加油!などと声を掛け合いながら登っていく。すると、周囲とは明らかに足取りの違うランナーが背後からあっという間に我々を追い抜いていく。フル参加の健脚ランナーと330のペーサーであり、彼らから「君たちは345ペーサーは、まだ速すぎるよ」との指摘を受けて更にペースダウン、最後のエイドでは立ち止まり、ボランティアのおばさんたちと世間話に興じる。この辺のキロ平均は15分以上要していたはずである。

坂を登り切った辺りで、看護婦の基隆女子は、足を吊ったランナーを見つけ、すぐに駆け寄り処



最後のエイド、台湾バナナで補給



28K 地点、カメラマンに要求に応じる



中学生による演奏が心地よい

置にあたる。しばしば、ロードレースで看護ボランティアもしているようで手際が良い。筆者も急造の看護助手となり、お手伝いをする。その後に、素人？カメラマンの要求に応じて我々3人はジャンプをしたりポーズを決めるスナップを数枚撮ってもらう。これらの写真は無料でダウンロードさせてもらった。

トンネルを抜け、下り坂に入りゴールの会場が見えると「こんなに楽しめたレースが終ってしまうのか」と感傷的になる。先ほどの「足吊りランナー」は、下り坂で元気になったのか、突然下り坂をダッシュで駆け下りていった。

我々345チームも公式タイムが3時間40分を過ぎたことを確認し、最後は仲良く？3人で手をつなぎ涙こそないが感動のゴールラインを超えた。

## 5. レース後の雑感

本レースは、セミプロレベルのランナーは皆無だと思っていたが、42Kの優勝者は、ケニア籍のThomas Matheka Muliで優勝タイムは2時間50分台であった。台湾で賞金のあるレースには、かなりの割合でケニア人が上位を占める。検索してみると同人は昨秋以降、台湾でほぼ毎月レースに出ており、2018年11月の彰化県田中マラソン、



ペーサーシャツ、記録証明書、感謝状等

12月の花蓮県太平洋マラソンで優勝したほか、今年2月の高雄マラソンでも7位に入賞するなど、賞金レースを転戦しているようである。

さて、今レースの評価である。台湾における代表的なランニングポータルサイトである「運動筆記 (Sports Note)」での評点は、142人の評価を受け、5点満点で4.4点を獲得している（ちなみに台湾で最大規模の台北マラソンは3.7点）。

参加者が満足した点は、風景、快適な気候と爽やかな空気、熱心なボランティア、サオ族と関係

の深い鹿をデザインに使ったお洒落な完走メダル等が挙げられていた。筆者にとっては、ほとんどのレースが、記録優先であり、レース中の撮影、飲食は最低限に抑えるのが常であった。しかし、今回のレースは、先を急がず練習ペースで走れたので余裕をもって、撮影、飲食、他ランナーとの会話を堪能できた。ペーサーという仕事柄、他のランナーに注目もされたが、これだけ、のんびりとした気持ちで楽しみながらのランは初めてであり、ランニングを通じての交流を楽しむにはペースメーカーの仕事は最適なのではないかと思った次第であった。

今回は、桜の開花には少し早い季節だったのが少々悔やまれたが、同地では毎年、秋真っ盛りの10月下旬にもレースが開催されているところ、秋の日月潭を見たいという気持ちが強くなつており、本年度秋レースへの参加、それもペーサーとしての応募を画策をすることになるであろう。日月潭のレース、そしてペーサーという役割は、自信を持って周囲に薦めたいイベントであることを実感できたレースであった。

謝謝日月潭！感謝配速員！



## 新竹（1）～台湾北西部の中核

片倉 佳史（台湾在住作家）

新竹は台湾北西部に位置する都市である。台北から約60キロ離れた場所にあり、地域の中核となっている。人口は約45万となっており、近隣の広範な地域の中心となっているためか、人口以上に賑やかな印象である。今回は「風城」とも称されるこの町について紹介してみよう。

新竹 シンツー（國語・台湾華語）

新竹 しんてつ（台湾語・ホーロー語）

新竹 シンティエッ（客家語）

### 産業都市、そして文教都市として君臨

新竹（しんちく）は古くから産業都市として発達してきた町である。日本統治時代は台湾北部有数の都市として、北西部一帯の中核機能を担ってきた。また、交通の要衝でもあり、枢要な地位を誇っていた都市でもある。

現在、新竹はIC産業とコンピューター周辺機器の製造で知られる産業都市となっている。郊外にはサイエンスパークが設けられ、外国人エンジニアの姿もよく見かける。その発展ぶりは「台湾のシリコンバレー」と称されており、名実ともに台湾経済を支えている。

また、2007年1月5日に開業した台湾高速鉄路（台湾高鉄）を利用すれば、台北からの所要時間はわずか30分ほどで、また、空の玄関口である台湾桃園国際空港にも近い。こういった交通至便な立地も、この町の発展を支えている。外国人居住者の場合、台北に住居を構え、高速鉄道で通勤するというケースもごく普通に見られる。

さらに、大学や研究機関が集まる文教都市としても知名度は高い。郊外には清华大学や交通大学といった学校が見られ、研究機関が多く集まっている。こういったところの周辺には学生街も形成されており、独特な雰囲気が感じられる。



台湾高速鉄路の新竹駅。斬新なデザインが自慢の駅舎。台湾高鉄の中で最も駅前の開発が進んでいる駅もある。

### 清国統治時代に確立された都市の地位

都市としては清国統治時代からすでに発展を見ており、1895（明治28）年以降は、台湾総督府にその繁栄が受け継がれた。数多くの官庁建築が建てられ、これらは今も使用されているところが見られる。また、日本統治時代は都市計画が重視され、公園や緑地も計画的に整備された。

まずは新竹の歴史をたどってみよう。新竹一帯は台湾北部において、最も早く開拓が始まった土地である。その歴史は300年ほど昔にさかのぼる。当初、ここに住んでいたのは平埔族（平地原住民）のタオカス族であった。

17世紀、オランダ統治時代に編纂された地図には、「竹塹」という名の集落がこの辺りに見える。一帯は草原が広がる沃野であったため、南部から北上してきた漢人系住民の入植が始まると、瞬く間に開墾が進んでいった。

その後、鄭氏政権が崩壊し、台湾島が清国の版

図に組み込まれると、中国大陸南部からの移民が大量に流入してきた。これにより、平埔族の人々は山間部へ追いやられるか、漢人系住民と混血していくことで、徐々にアイデンティティを失っていった。

鄭氏政権の末期、漢人系住民とタオカス族の争いは断続的に続いていた。そして、敗れたタオカス族が竹東と南庄方面へ追いやられ、これが後にサイシャット族を形成するようになったという言い伝えが存在している。ただし、これについては確証がなく、当時、平地に居住していたサイシャット族が山地へ退転したという説もあり、考証が待たれる。いずれにしても、漢人との接触を経て、タオカス族は部族としてのアイデンティティを失っていった。

清国統治時代、「竹塹（現地語でテクチャム）」は小さいながらも都市となっていた。ここが新竹の前身となる。その後、1723年に淡水庁が置かれ、この頃にはすでに地域の中核となっていた。1875年には竹塹が新竹と改められている。

新竹は古くから中国大陆との交易が盛んで、郊外の舊港（現在の南寮）は台湾における有数の規模の港湾だった。

## 日本統治時代と戦後

1895（明治28）年、日清戦争後の下関条約によって、台湾は日本に割譲された。その後、1901（明



日本統治時代の家並み。新竹駅と迎曦門を結ぶかつての駅前通り。現在は中正路と呼ばれている。『日本地理大系』より。

治34）年に新竹庁が置かれると、ここは台湾北部における行政の中心となった。そして、市区改正が施行され、都市計画が立てられた。これにより、町並みは一新される。

新しい家並みは旧城内の外に設けられた駅を中心に入れられた。後述するが、城壁は撤去された後に濠となり、現在は公園となっている。

その後、新竹庁は新竹州に改められ、神社、専売局、地方法院、少年刑務所などが置かれた。そして、新竹は名実ともに台湾北西部の中核となっていく。1930（昭和5）年には、宜蘭（ぎらん）や嘉義（かぎ）とともに、市制が敷かれている。1934（昭和9）年末に編まれた統計では、当時の新竹市の人口は5万4千人あまりとなっており、日本人は約6千人を占めていたという。

なお、この町には飛行場があったため、戦時には度重なる空襲を受けた。州庁舎（現在の新竹市政府）などの官庁舎や製糖工場といった産業施設が被弾し、大きな被害が出た。これによって、都市の機能は停止した。

そして、1945（昭和20）年8月15日、敗戦という形で終戦を迎える。

## 混乱を極めた戦後の新竹

終戦後の台湾は日本に代わって中華民国が統治



帝国製糖新竹製糖所は町はずれに設けられていた。当初は南日本製糖の工場だったが、1917（大正6）年に帝国製糖に吸収合併され、さらに1940（昭和15）年には大日本製糖と合併した。戦時に空襲に遭い、戦後の1952年10月かぎりで閉鎖された。

者となった。日本人が去った後の新竹は、国民党政府とともに中国大陸を追わされてきた「外省人」が多く住む町となった。そして、市内各所に「眷村（けんそん）」と呼ばれる外省人下級兵士が暮らす集落が形成された。新竹は日本統治時代に飛行場が設けられていた関係で、戦後も空軍関係者が多く住みついた。現在もなお、新竹市は総人口の4分の1近くが外省籍であると言われ、統一派勢力の地盤となっている。

なお、市内には台湾で唯一、眷村の暮らしと文化を紹介する眷村博物館がある。

## そぞろ歩きと食べ歩きが楽しい新竹

この町を散策していると、公園がとても多いことに気付かされる。現在、新竹市の面積は104平方キロあまりだが、ここには40あまりの公園が整備されている。

その中でも町はずれにある新竹公園と、清国統治時代の城壁跡地を整備した親水公園はこの町を代表する緑地である。いずれもここ数年で再整備が施され、美しい景観を誇っている。産業都市として的一面が強調されることの多い新竹だが、公園都市としての側面にも注目してみたい。

また、食の楽しみも奥が深い。新竹は古くから繁栄してきた都市だけあって、歴史に裏付けされた食文化に触れる楽しみがある。とりわけ「小吃（シアオツー）」と呼ばれる軽食や屋台料理に名物が多いのが特色だ。新竹の特産品とされる米粉（ビーフン）をはじめ、郷土料理の類も少なくない。

市の中心部にある城隍廟（じょうこうびょう）は、廟の前の広場に屋台がひしめき合い、いつ訪れても活気に包まれている。味自慢の店が並び、押しも押されもないグルメスポットである。新竹米粉（ビーフン）のほか、摺丸湯<sup>※1</sup>（すり身団子のスープ）など、名物は多いので、気ままに食べ歩きを楽しんでみたい。

また、城隍廟に隣接する東門市場も見逃せない



城隍廟は新竹を代表する名刹。1748年に創建された。現在の建物は1924（大正13）年に竣工したもの。廟の周辺には屋台や露店が並ぶ。



屋台がひしめき合う城隍廟前の様子。午後から夕方にかけてが最も賑わう。

グルメスポットである。ここは日本統治時代に設けられた公設市場で、山積みになった肉や野菜、果物なども圧巻だが、庶民が愛する屋台料理も味わっておきたいところである。訪れるなら、買い物客で賑わう午前中がお薦めだ。

※1 新竹の場合は必ず手へんが付く。

## 風の町、そして台湾第二の高峰

新竹は風の強い町として知られている。特に冬場に吹きつける季節風は強く、清国統治時代の新竹は「風城」と呼ばれていた。さらに、春先は山岳部から吹き下ろす冷風に晒されるため、意外なまでの冷え込みとなる。この風は中央山脈から平地に向かって吹き付ける。台湾北部の最高峰は「次高山（現在の呼称は雪山）」で、これにちなん

で、冷風は「次高おろし」と呼ばれていた。

次高山は標高 3886 メートルで、台湾第二の高峰である。日本統治時代は靈峰・新高山（標高 3952 メートル）に次ぐ日本第二の山峰であり、広く知られていた。

1867 年、英國船シルビヤ号が台湾海峡を航行した際、船員がこの山峰を目にしたことにならみ、シルビヤ山の呼称が生まれた。この名は日本統治時代にも受け継がれたが、1923（大正 12）年の皇太子行啓の際、新高山に次ぐ高峰ということで、「次高山」と命名された。これは、同年 4 月 29 日、台灣總督府報号外にて発表された。

タイヤル（アタヤル）族の人々はここを「マハマヤン」と呼び、近隣に住むシカヨウ集落の人々は「バホ・バガイ（石の山）」と呼んだ。さらに、「セコアン」という呼称もあり、漢人はこれに漢字を当て「雪高翁山」と記したという。また、「雪山」の呼称も古くから見られ、これは降雪にちなんだものとされる。しかし、水分を含んだ風が蘭陽平野側から入り込むため、冬場は積雪を見ることが多いものの、実際は、山頂部に石灰岩質の層があり、冬場でなくても遠目に白雪のように見えるためである。

次高主峰の南側には白姑大山（はっくたいざん）（3341m）、東側には南湖大山（なんこたいざん）（3742m）と中央尖山（3705m）、西側には大雪山（3530m）が連なる。そして、主峰以下、大霸尖山、桃山、大雪山、小雪山などを次高山系と呼んだ。いずれも 3000 メートル級で、積雪を抱く姿は「台湾のアルプス」とも称された。中でも大霸尖山（3492m）はその独特な形状で知られていた。

なお、現在、台湾五岳と呼ばれるのは台湾最高峰の玉山（新高山）を筆頭に、雪山（次高山）、秀姑巒山、南湖大山、北大武山を示し、登山客の熱いまなざしを受けている。

なお、次高山は山稜に沿って進み、比較的容易に頂上へ達することができたというが、山頂付近

は風化作用が激しく、露出した岩盤が随所に見られる。また、風が強いため、植生は乏しく、荒涼としている。ただ、山頂からの眺めの良さは新高山を凌ぐとも言われ、多くの登山客を魅了した。山頂には「次高祠」という神社が設けられていた。

大霸尖山は頂部に隆起岩塊があり、独特な山容を誇る。タイヤル語では「バホ・バッパク（耳の山）」と呼ばれ、日本統治時代も「耳ヶ嶽」の称があった。靈山でもあり、タイヤル族の神話・伝説には頻繁にこの山が出てくる。ちなみに、サイシャット族の人々はこの山を「カパタラヤン」と呼ぶ。

1937（昭和 12）年 12 月 27 日には台北郊外の大屯（だいとん）山、新高（にいたか）・阿里山とと



次高山は台湾第二の高峰。新高山が男性的な景観であるのに対し、次高山系は女性的で優しい趣があるとされた。



独特な形態をしている大霸尖山の様子。近くには小霸尖山もある。日本統治時代は「耳ヶ嶽」とも呼ばれた。



新竹名物のビーフンもまた、風とは強い結びつきがある。

もに、次高・タロコの名で国立公園に指定されている。その内、次高タロコ国立公園は当時、日本最大の面積を誇っていた。

なお、「次高おろし」は新竹特産のビーフン(米粉)にも影響を与えていた。山から吹きおろす風と海から吹き付ける風を当てることで、ビーフンに独特の歯ごたえが出てくるのだ。なお、新竹と並んでビーフンの産地とされる南投県の埔里(ほり)もまた、中央山脈から吹きおろす冷風で知られている。

## 台湾を代表する名駅舎～新竹駅の話

新竹駅の歴史は清国統治時代の1893年10月30日に溯る。基隆を起点とした鉄道は、まずは1891年に台北までの区間が開通し、翌々年に新竹までの区間が営業開始となった。

当時の新竹駅は終着駅であり、駅舎は日干し煉瓦を用いた建物が設けられた。名称は「新竹火車票房」で、大きさは14坪に過ぎなかった。駅というよりはむしろ、乗り場という表現が適切な感じだった。

その後、日本統治時代に入ると、台湾総督府は大規模輸送の担い手として鉄道を重視し、島の南北を結ぶ縦貫鉄道の敷設を急いだ。これに合わせ、新竹駅も建て替えられることとなった。2代目となる駅舎は木造平屋の造りで、建坪は24坪であった。この駅舎は領台翌年の1896(明治29)

年に竣工している。

なお、1896(明治29)年6月17日には、台湾統治が始まって一周年の記念式典が行なわれ、内閣総理大臣の伊藤博文が台湾を訪れている。その際、6月15日に伊藤は海軍大臣である西郷従道、台湾総督の桂太郎とともに鉄道で新竹を訪れている。その際、この2代目駅舎に降り立った。

その後、駅舎は1902(明治35)年にも建て替えが行なわれている。この時にはすでに、新竹は台湾北西部の中枢という位置づけにあった。縦貫鉄道の建設に伴う物資輸送の需要も高まり、駅はとても賑わっていたようだ。

3代目の駅舎もやはり木造の平屋造りで、建坪は44坪だった。これは当時としては大きな部類に入る駅舎建築であったという。

そして、1913(大正2)年に現在の駅舎が竣工する。4代目となるこの建物は、5年の歳月をかけて造られ、3月31日に式典が催された。当初から台湾の駅舎建築の筆頭に挙げられていた。

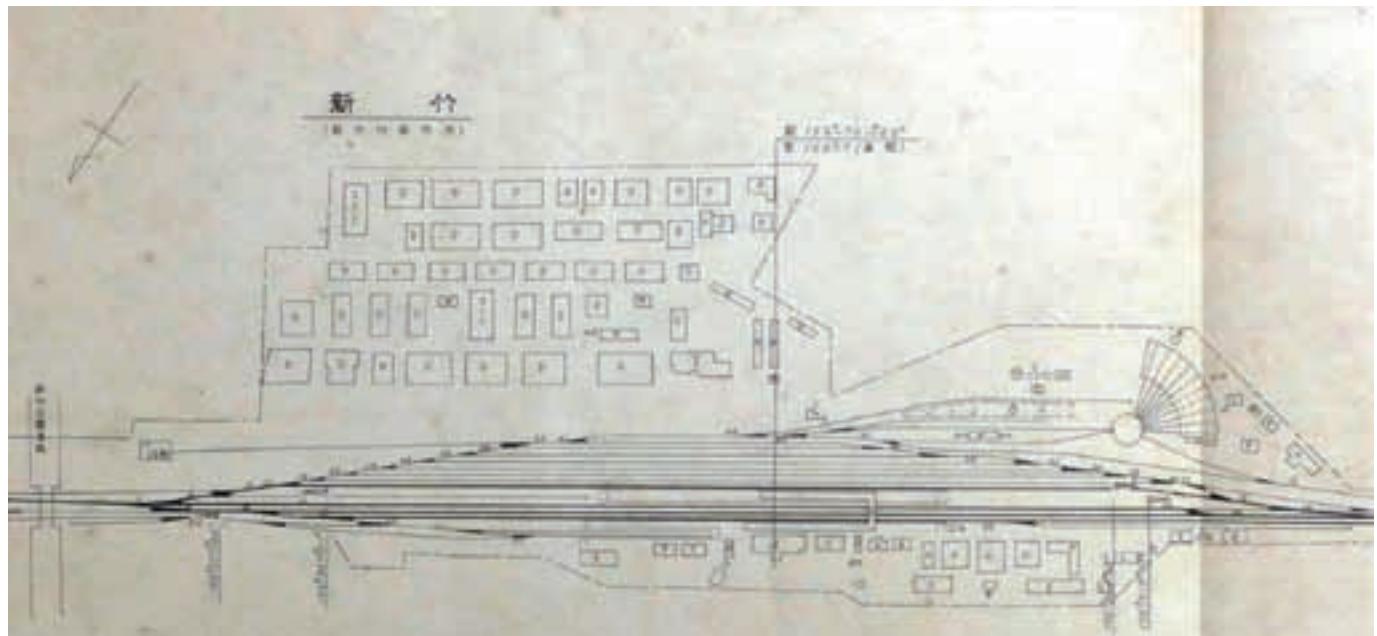
## 駅舎を手がけた建築技師

新竹駅はドイツ風ネオバロック様式と呼ばれるスタイルで、直線で構成された屋根のラインが印象的だ。優美な中にも厳つい表情を持ち合わせた建物である。

中央には銅葺きの塔が設けられ、大きな時計が据え付けられていた。これは公定時刻を市民に知



重厚感を感じさせる新竹駅。台中や基隆(現存せず)と並んで台湾の三大名駅舎に挙げられていた。



構内には側線が多く設けられ、運行上の拠点でもあった。南方にあった扇形車庫は取り壊されてしまった。昭和5年時の構内配線図（陳朝強氏所蔵）。

らせるという役割を持ち、戦前のターミナル建築によく見られたものである。個人で時計を持つことが少なかった時代に特有のものである。

この駅舎の設計は松ヶ崎萬長（まつがさきつむなが）という人物が担ったとされる。松ヶ崎は1871年に13歳で遣欧使節団に従い、ドイツのベルリン工科大学で建築学を修めた人物である。日本で最初にドイツ建築を紹介したことで知られ、日本建築学会の前身である造家学会の創設にも関わっている。近代日本建築界の黎明期において重要な役割を果たした人物である。

松ヶ崎は1907（明治40）年に台湾総督府鉄道部の嘱託技師として台湾へ渡ってきた。在職中は基隆（きいるん）駅や台北鉄道ホテルの設計に携わり、そのほか、いくつかの駅舎建築を手がけたとされる。

新竹の駅舎は直線を多用し、質実剛健な雰囲気を醸し出している。特に屋根のラインが特色で、気品を漂わせながらも、毅然とした表情を持ち合わせたような印象である。現在は駅周辺が景観整備されており、駅舎の美しさが際立つようになっ

た。できれば、少し離れて、駅舎をカメラに収めたい。

松ヶ崎の人となりは謎に包まれているが、豪胆な性格で、酒をこよなく愛した人物と言われている。建築界の後輩たちにも慕われていたようで、好人物だったと推測される。松ヶ崎が台湾にいた時間は長くないが、後輩たちには大きな影響を与えたようだ。台湾時代に松ヶ崎が手がけた物件については、記録や史料が少なく、詳細は不明ことが多い。考証が待たれるところである。



新竹駅は台湾で最も美しい駅舎とされていた。竣工は1913（大正2）年3月31日。総工費は2万2500円だった。

松ヶ崎が手がけた物件は、現在、この新竹駅と栃木県にある元外務大臣・青木周蔵の那須別邸が残るのみである。そして、新竹駅は台湾に現存する最古のターミナル建築にもなっている。

## 皇太子行啓と新竹駅

1923(大正12)年4月19日、大正天皇の摂政として皇太子（のちの昭和天皇）が台湾を行啓した際、新竹を訪れた。特別客車「ホトク1」型客車に乗車した皇太子は、11時28分に新竹駅に降り立った。駅について語られた言葉などは残っていないが、この駅舎にどんな印象を抱いたのか、興味深いところである。

この日、皇太子一行は日本本土を離れて8日目、すなわち、台湾到着後4日目であった。皇太子は朝7時に起床し、8時30分に台北宿泊所となっていた台湾総督官邸（現・台北賓館）を出発。自動車で台北駅へ向かっている。そして、8時40分発の特別列車にて台北を離れ、9時24分、桃園駅を発車後、第八代台湾総督の田健治郎が桃園埠塲について説明をしている。

新竹駅に到着したのは10時31分だった。ここから新竹州庁（現・新竹市政府）に向かい、10時40分に到着。11時15分に新竹尋常高等小学校（現・新竹國民小學）に寄った後、駅に戻り、11時28分発の列車で、台中へと向かった。そして、先述したように、車中にシルビア山について田総督から説明を受けている。

新竹に滞在した時間はわずか一時間足らずであった。しかし、皇太子が降り立った駅舎の中で現存し、今も使用されているのは、この新竹駅のみである。

## 大正期のターミナル建築を細見

駅舎の内部は思いのほか小ぶりである。特に通勤通学客の多い朝夕の時間帯にこの駅を訪れる、手狭な印象を否めない。コンコースは常に人



皇太子行啓時の新竹駅の様子。新元久氏所蔵。



新竹駅を出ていく特別列車。新元久氏所蔵。

で溢れ返っている印象だ。

しかし、人の流れはスムーズで、混乱した様子が感じられないのも事実である。これは動線の管理にその理由がある。日本統治時代に設けられた台湾の駅舎は、多くの場合、改札口を駅舎内に設け、出口を駅舎脇に設けている。これによって、出入りする人に流れを与え、混雑を防ぐのである。つまり、駅舎を通るのは、これから列車に乗り込む人だけであり、降車客は待合室を通らずに町へ出て行くのである。

また、便所が駅舎外に設けられていることにも注目したい。衛生事情が芳しくなかった時代、病原菌が蔓延することを防ぐべく、便所は別棟にして設けていた。こういったスタイルは台湾総督府



台湾が誇るターミナル建築。竣工以来、常に街のシンボルとなってきた。夜間はライトアップされ、美しさを増す。

の衛生管理の手法に基づいたものだが、台湾が日本の統治から離れた後も、それが受け継がれているのは興味深いところである。

現在、台湾にはいくつかの戦前の駅舎が現役となっているが、便所を駅舎内に設けているところはほとんど見られない。これは台湾の風土の特質を見極め、時代に見合った建築のスタイルを追究した結果と言つていいだろう。

乗降客の動線管理の事例については、戦後に建てられた彰化駅、台東駅などでも見られ、改札口と出口とは分かれている。日本統治時代に作りあげられた発想は、理にかなったものとして評価され、戦後の建築にも採用されているのである。

## 文化財としての保存、そして復元

昭和時代を迎え、町の発展とともに駅の利用者も増えていったが、戦時には米軍による空爆を受け、大きな被害が出た。特に1943(昭和18)年11月25日の空襲では新竹飛行場が狙われ、鉄道施設にも大きな被害が出た。

敗戦によって日本人が台湾を去ると、中華民国が統治者として君臨するようになった。鉄道も中華民国・国民党政府が接収し、運営は交通部台湾鉄路管理局によって行なわれるようになった。

空爆を受けた新竹駅は1948年に修復され、鉄道の営業も再開された。その後、駅舎の左翼部分に増築が施され、左右対称のシンメトリーは崩れ



待合室は大きくないが、高い天井が印象的である。

てしまった。日本統治時代のターミナル建築は等しく左右が対称となっており、これが一種の定番のスタイルだったが、戦後に台湾へやってきた中華民国の建築士たちは、そういった美学を持たなかつた。

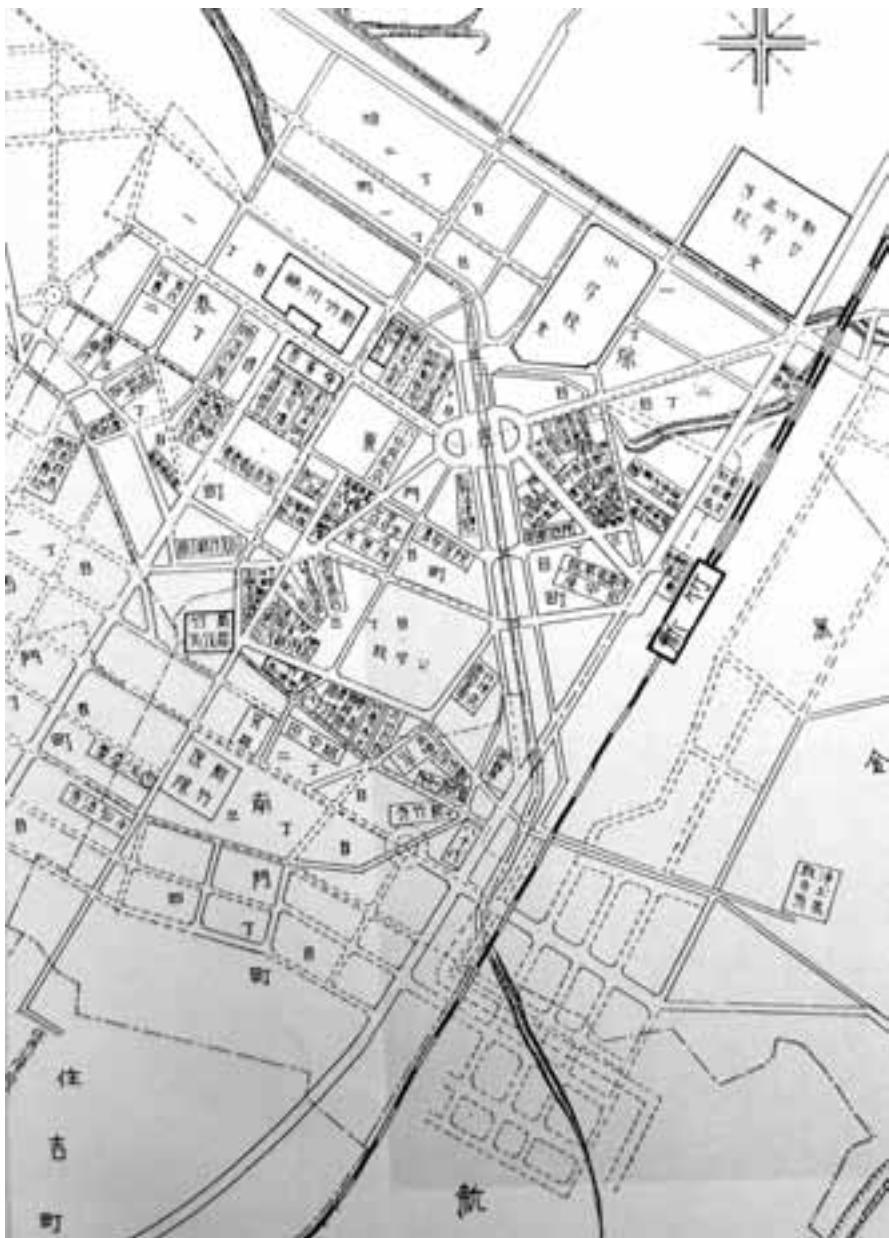
左翼部分は1968年に完成し、ここに駅務室が入った。また、1973年には右翼部分にも増築が施されている。こちらには鉄道警察が入つた。当時は既存の建築物に中華風の装飾を付けたり、ナショナリズムに基づいた改造を施したりすることが頻繁に行なわれていた。幸い、ここの場合は、そういったことは少なかったが、やはり建築美は失われていた。

## 駅舎は史跡として保存されている

駅舎そのものの建て直しも検討されたが、竣工時の姿を保つ駅舎は少なく、歴史的な価値も考慮



駅舎だけでなく、構内も往年の雰囲気が感じられる。基本的には全列車が停車する。



新竹駅周辺の様子。『台湾鉄道旅行案内』より。

され、1998年6月23日に文化財の指定を受け、保存されることとなった。

一方、日本国内においても、大正期のターミナル建築が現役であることは極めて珍しく、2015年にはJR東日本の東京駅丸の内駅舎との間で、姉妹駅関係が締結された。調印式は2月12日に行なわれ、大きく話題となった。

両駅は日本人が手がけた大正期の建築物であり、欧風の駅舎建築でもある。竣工時期も新竹が

1913（大正2）年3月31日、東京駅が1914（大正3）年12月20日と、ほぼ同時期である。さらに、東京駅の設計者である辰野金吾もまた、松ヶ崎と同様、造家学会（後の日本建築学会）の創設委員であった。

なお、新竹駅の正面には「新竹車站」（駅の意味）と記された大きな看板が掲げられていた。しかし、歴史に忠実にあるべきということで、竣工時の姿に戻す作業が実施された。現在は駅名標は取

り外され、玄関上にあった大きなデジタル式時計も取り払われた。さらに壁面も日本統治時代の色合いに戻された。

また、史跡の指定を受けているのは駅舎だけではない。ホームに設けられた雨よけ屋根も文化財

の扱いを受けている。これは使用済みの古レールを用いたもので、台湾ではいくつかの駅で見られるが、保存対象とされたのはここが最初である。

次回もまた、新竹について紹介したいと思う。

片倉佳史（かたくら よしふみ）

1969年生まれ。早稲田大学教育学部卒業。台湾に残る日本統治時代の遺構を探し歩き、記録している。著書に『古写真が語る台湾 日本統治時代の50年』、『台湾に生きている日本』、『台湾探見-ちょっぴりディープに台湾体験』（片倉真理との共著）など。また、台湾生活情報誌『悠遊台湾』を毎年刊行。最新刊は『台北歴史建築探訪～日本が遺した建築遺産』（ウェッジ）。2019年春より武蔵野大学客員教授に就任。

ウェブサイト台湾特搜百貨店 <http://katakura.net/>

# 日本台湾交流協会事業月間報告

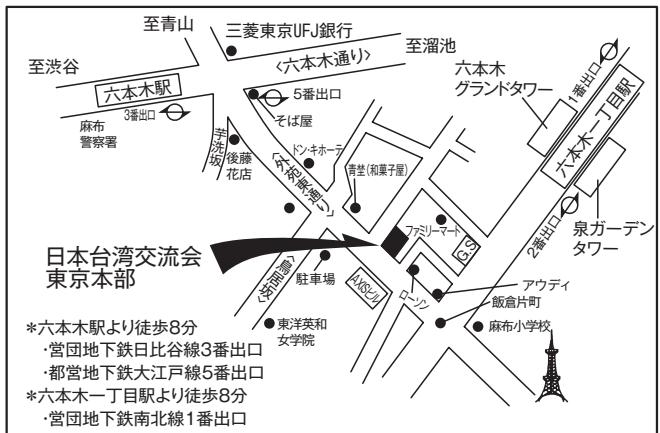
主な日本台湾交流協会事業（2月実施分）

| 2月         | 場所    | 内容                                                            | 主な出席者（日）                                                                                                      | 主な出席者（台）                                                           |
|------------|-------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1月27日-2月1日 | 東京、福島 | 有力者招聘事業                                                       | 舟町専務理事、江藤貿易経済部部長（東京）他                                                                                         | 王美花・経済部常務次長 他                                                      |
| 11日-17日    | 東京、静岡 | 対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」第5陣（テーマ：日本のスポーツマネジメント）大学生・大学院生24名来日 | 増井浩二・静岡県外交監、安達佳弘・内閣官房オリンピックパラリンピック推進本部事務局企画官、磯谷桂太郎・スポーツ庁政策専門官、佐野雅之・日本体育大学教授、竹田光希・外務省事務官、谷崎理事長、高山総務部長、松寺副長（本部） | 大学生/大学院生24名、黃冠超・駐日台北経済文化代表事務所教育部部長、洪宜民・中華経済研究院東京事務所所長、廖俊儒・国立中正大学教授 |
| 13日        | 台中市   | 領事出張サービス                                                      | 北野主任（台北）                                                                                                      |                                                                    |
| 14日        | 台南市   | 領事出張サービス（於：内政部移民署台南市第一服務站）                                    | 鈴木主任（高雄）                                                                                                      |                                                                    |
| 15日        | 東京    | 日台ビジネス交流推進委員会・日本奨学金留学生との交流会                                   | 本坊吉博・委員長、舟町専務理事（東京）他                                                                                          | 日本奨学金留学生19名、ITI研修生3名                                               |
| 19日        | 屏東県   | 2019台湾燈會在屏東開幕式                                                | 中郡所長（高雄）他                                                                                                     | 蔡英文・總統、蘇嘉全・立法院長、潘孟安・屏東県長、陳菊・總統府秘書長 他                               |
| 20日        | 高雄市   | 海洋委員会・AIT主催「南台灣海洋青年フォーラム」出席                                   | 岩倉次長（高雄）他                                                                                                     | 陳陽益・海洋委員会副主任委員、グリーン・米国在台協会副處長、コナー・同高雄分處處長 他                        |
| 21日        | 台北市   | 台湾電力（TPC）、NEDO、JCOAL主催「2019日台火力発電ワークショッッププログラム」               | 橋口昌道・JCOAL専務理事、星野副代表（台北）                                                                                      | 陳建益・TPC副総經理、陳崇憲・経済部能源局能源技術組組長、張志偉・行政院環境保護署空気品質保護及噪音管制處高級環境技術師      |
| 22日        | 唐津市   | 日台産業協力架け橋PJ（台湾化粧品セミナー）                                        | 石田貿易経済部次長、水越同部副長（東京）他                                                                                         | 嚴麗婷・对外貿易發展協會高級專員、小野和彦・香港商艾思黛有限公司台灣分公司總經理、李昆霖・佐見啦生技股份有限公司執行長        |
| 22日        | 台中市   | 台中日本人学校運営委員会出席                                                | 鶴見主任（台北）                                                                                                      |                                                                    |
| 23日-24日    | 台北市   | 日本語パートナーズ台湾3期中間研修                                             | 阿部洋子・国際交流基金アジアセンター日本語専門員、日本語パートナーズ台湾3期14名、松原広報文化部長、浅田主任、矢内調整員（台北）                                             |                                                                    |
| 24日        | 高雄市   | 文化講座「ときめきの和菓子」（高雄事務所主催事業）                                     | 清重主事（高雄）他                                                                                                     |                                                                    |
| 25日        | 高雄市   | 「高雄医学大学と金沢医科大学との間における国際医療協力のMOU締結式」出席                         | 高島・金沢医科大学理事長他、岩倉次長（高雄）                                                                                        | 鐘育志・高雄医学大学校長、林立人・高雄市政府衛生局長 他                                       |

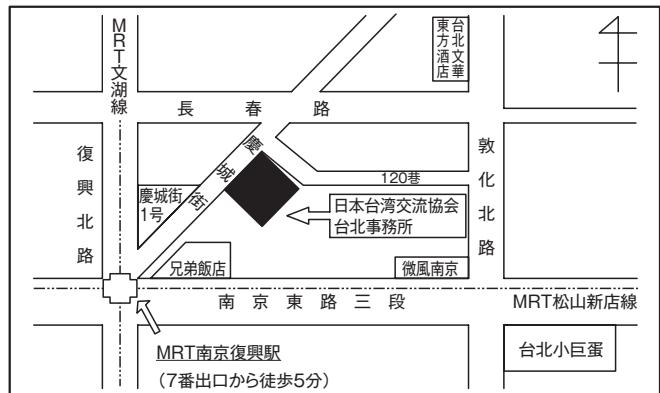
交流

2019年3月 vol.936

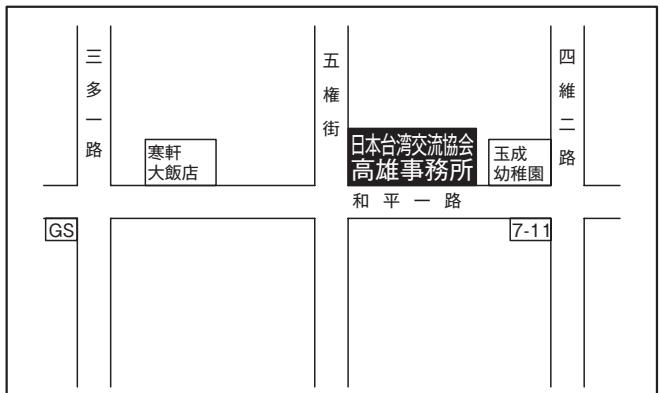
平成31年3月25日 発行  
編集・発行人 舟町仁志  
発行所 郵便番号 106-0032  
東京都港区六本木3丁目16番33号  
青葉六本木ビル7階  
公益財団法人 日本台湾交流協会 総務部  
電話 (03) 5573-2600  
FAX (03) 5573-2601  
URL <http://www.koryu.or.jp>  
(三事務所共通)



表紙デザイン：株式会社 丸井工文社  
印 刷 所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街 28 號 通泰大樓  
Tong Tai Plaza, 28 Ching Cheng st., Taipei  
電 話 (886) 2-2713-8000  
F A X (886) 2-2713-8787



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路 87 号  
南和和平大楼 9 楼 · 10 楼  
9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan  
電 話 (886) 7-771-4008 (代)  
F A X (886) 2-771-2734

